

# いもう 葦毛通信



マルバアオダモ

2025年6月24日  
豊橋市文化財センター  
豊橋市松葉町三丁目1  
TEL: 0532-56-6060

No. 172

## 1、葦毛湿原の活動を全国に伝える情報発信

葦毛湿原が2021年に国指定天然記念物に昇格して以後、葦毛湿原の活動を紹介する機会が増えました。2024年度は日本高山植物保護協会と広島大学東広島植物園から依頼があり、葦毛湿原等での活動説明を行ってきました。これからも、葦毛湿原での取り組みについて、できる限り情報を発信していきたいと考えています。

### 1) 日本高山植物保護協会

2024年10月27日(日)に甲府市で行われた「NPO法人日本高山植物保護協会 JAFPA 設立35周年 NPO法人20周年記念シンポジウム」で「葦毛湿原の大規模植生回復」と題した報告をしてきました。シンポジウムは、第1部：講演、第2部：活動事例発表、第3部：山の現状報告の3部構成で行われました。

第2部は13時から開催され、贅元洋による「葦毛湿原の大規模植生回復作業」、小笠山を愛する協議会副代表瀧本健氏による「小笠山を愛する協議会の活動紹介「小笠山の自然を守る」、利根沼自然を愛する会副会長二川真士氏による「玉原高原《豊かなブナの森を次世代に残すために》」、乙女高原ファンクラブ代表世話人植原彰氏による「人のつながりが自然を守る力になる」の4つの事例報告がされました。贅の報告の内容は、葦毛湿原等での活動が、豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会の3団体による協働ですすめられていること、考古学の発掘調査技術と保全生態学の成果をコラボさせた全国的にみても新たな取り組みを行っていることを、パワーポイントを使って説明しました。報告者のうち行政の担当者は私一人で、葦毛湿原の取り組みは、行政とボランティア団体が協力して行っている事業の成功事例として高い関心を持っていただきました。

### 2) ミコシギク講演会

2025年3月11日(火)に東広島市立福富小学校・中学校で「ミコシギク講演会」が行われました。ミコシギク講演会は福富小学校・中学校が主催し、広島大学総合博物館が後援するイベントです。

講演会は、中谷成男校長の挨拶で始まり、福富中学校生徒Dグループによる「ミコシギク～東広島市福富町の貴重な生命～」の発表があり、ボランティア活動の内容説明がありました。続いて、広島大学学生の稲葉啓斗さんによる「広島大学におけるミコシギクの保全に向けた研究」の研究発表がありました。現地での発芽実験や各種の実験結果について詳細な報告があり、ミコシギクの発芽条件等について新たな知見を得ることができました。引き続き、贅元洋が「三太郎池湿地のミコシギクと葦毛湿原大規模植生回復作業」と題した講演を行い、豊橋市で行っているミコシギクの保全活動の内容と葦毛湿原での植生回復作業について詳細に説明を行いました。

東広島ではボランティア活動の中心を中学校の生徒が担い、広島大学植物園、広島大学学生、ミコシギク保護の会が協力する体制が整えられていると感じました。豊橋市においてもこのような体制ができることは葦毛湿原等の今後の保全についても参考になると感じ

ました。

また、広島では特に域外保全について新たな知見を得ることができました。豊橋市ではこれまでミコシギクは域内保全を中心に行い域外保全は積極的に行ってきませんでした。域外保全では、豊橋総合動植物公園の植物園と富山県中央植物園に協力していただき、採取した種子を送って域外保全を行い、自らが主体的に行うことはしてきませんでした。

しかし、今回の知見を活かし積極的に域外保全に取り組むことにしました。ボランティアの方々の協力のもと、ミコシギクの域外保全を始めています。

## 2、2025年ナガバノイシモチソウ経過報告-1

### 1) ナガバノイシモチソウが発芽しました！

ナガバノイシモチソウの発芽を4月20日に第1～7地点で949個体確認しました。今年度の初確認です。昨年4月17日だったので、ほぼ例年並みです。一部では集中して折り重なるようになっているところもありますが、あまりにも小さくて計測不可能です。また、十字に開いた葉は長さが2～3mmほどで、捕虫葉の先には粘液が出て水滴状になっています。今年は発芽後の生長が遅いようで、折り重なるように集中するところもありますが、個体数は少なく全体的には昨年より数が減っているように見えます。



ナガバノイシモチソウ自生地（2025年4月20日）



ナガバノ発芽状況（4月20日）



発芽状況拡大：中央にある黒い球は双葉の先端に残った種皮（2025年4月20日）

## 2) ナガバノイシモチソウが**開花**しました！

6月上旬にはトウカイコモウセンゴケやネジバナが開花し始めました。ナガバノイシモチソウは例年より開花が遅れ6月15日に初開花を確認しました。昨年は6月3日に初開花を確認したので、12日遅れになります。

葦毛湿原でもハルリンドウの開花が2週間近く遅れていましたが、同じような状況です。関連性があるのかは分かりません。これから順調に開花数が増えていくと思われます。ナガバノイシモチソウは、例年6月初旬に開花し始め、8月頃に開花のピークを迎え、連日多くの花を咲かせます。9月になると開花数が少なくなって増減を繰り返し、10月にはさらに少なくなり、11月にはほとんど開花しなくなります。



ナガバノイシモチソウ開花状況（2025年6月15日）



花拡大

## 3、**ナガバノイシモチソウ**一般公開

- 1 開催日時 8月1～3日（金～日）9:30～11:30
- 2 集合場所 幸公園北西隅駐車場（佐藤町字池下）
- 3 参加申込 現地受付（事前申し込み不要）
- 4 問い合わせ 豊橋市文化財センター（☎0532-56-6060）

ナガバノイシモチソウはモウセンゴケ科の食虫植物で、赤花のナガバノイシモチソウは豊橋市と豊明市の2か所しか自生していません。日本固有種なので、地球上でこの2か所しか自生地がない貴重な植物です。

開花期は6～10月頃で、8月に開花のピークを迎える一日花です。太陽が昇ると開花し、12時ころには閉じてしまうので、実際には半日（午前中）しか咲きません。指定地はフェンスで囲まれています。年1回一般公開をしています。この機会にぜひご覧ください。



一般公開の様子（2024年8月2日）

## 4、ヤマトキソウが復活しました！

葦毛湿原でヤマトキソウが復活しました。6月4日に開花を確認しましたが、確認した時には開花が終わる寸前の状態でした。トキソウの群落の中に1輪だけ咲いていました。

ヤマトキソウは愛知県絶滅危惧Ⅱ類で、葦毛湿原では1988年に地上絶滅したとされており、37年ぶりに開花が確認できました。

葦毛湿原ではこれまでに21種の植物が絶滅しましたが、そのうちの14種が復活していました。今回のヤマトキソウで15種類目になります。これまで埋土種子から復活した植物は、植生回復作業後3年以内に復活しており、ヤマトキソウは作業後10年経ってから復活した珍しい例になります。

絶滅した残り6種類の植物もこれから復活するかもしれません。



ヤマトキソウ（2025年6月4日）

## 5、コタヌキモが開花しました！

コタヌキモは愛知県第4次レッドリスト（2020年版）では、絶滅（EX）とされており、レッドデータブックでは、「葦毛湿原のものは、原産地も不明で、除去が望ましい。」とされています。しかし、葦毛湿原のコタヌキモは1971年8月5日に東三河最後の自生地であった豊橋市細谷湿地から、圃場整備事業により細谷湿地が滅失する際に移植されたものです。

葦毛湿原のコタヌキモは野生絶滅（EW）とすべきもので、葦毛湿原では東三河に最後に残った系統として、保存対象にしています（豊橋市教育委員会2020年『葦毛湿原・ナガバノイシモチソウ自生地大規模植生回復作業報告Ⅱ 2015～2019年』35・36頁参照）。



コタヌキモ：開花状況（2025年5月15日）    コタヌキモ：花拡大（2025年5月15日）